

IIN One-Day Trip to Fushimi, Kyoto Canal Cruise, and Visit to a brewery

京都伏見日帰り旅行ー運河クルーズと醸造所の建物見学

実施日： 2023（令和5年） 10月21日（土） 8：30～16：00

参加： IIN会員 19名 ゲスト 14名

行先： 御香宮神社・黄桜カップカントリー（昼食）・寺田屋・
月桂冠見学・十石船クルーズ・長建寺



コロナ感染症の縛りから解き放たれ、遠出を計画。
幕末の動乱期、龍馬が駆けた町として有名な京都伏見を訪れました。
今年、ゲスト14名、インドネシア、アメリカ、モルディブ、イ
エメン、エジプト、ラオス、ケニア、ナイジェリア、カンボジア、
シリア、リベリアの方が、ご参加。国際色豊か！ 皆様、お話を楽
しまれました。

詳細です。

- 8：30 JR 茨木駅集合
- 8：52 JR 茨木発
- 9：23 JR 京都到着（近鉄に乗り換え）
- 9：40 近鉄京都発
- 9：50 近鉄桃山御陵着（ゲスト3人と合流）



10：05 御香宮神社到着



伏見の町の歴史・御香宮の説明。

久しぶりの野外活動の目的地は伏見。でも Why Fushimi? 伏見は古
代より肥沃な土地と豊富な水に恵まれ、古都奈良、京都の真ん中に
位置し文化の町でした。秀吉の水運開拓や家康の銀座設立等の結果、
交易の中心として栄えました。幕末には動乱の舞台となりましたが、
伝統的な日本家屋や造り酒屋が今なお残るタイムスリップしたよう
な街並みです。庶民的な商店街もゲストたちには大変魅力的だった
ようです。



御香宮神社は伝承によると良い香りの水が湧き出したことにより、その名を天皇より賜ったとされ、名水百選に選定されています。拝殿の唐破風下の極彩色の彫刻や能舞台などとても見どころの多い神社です。それに加えて、手水舎の使い方や拝礼の仕方など日本の風習について「なんか、面白い！」と感じて頂けたら嬉しいです。

11:10 黄桜カップカントリーで昼食

酒蔵を改装したレストランで日本食を楽しみました。

リベリアの方は、野菜の炊き合わせ、玉子焼き、ワサビ、デザート白玉など珍しかったようでした。



12:10 寺田屋到着



元の建物は、鳥羽伏見の戦いで、焼失。1905年に建て直され、現在は旅館、歴史博物館となっています。

史跡公園には龍馬像、薩摩藩の石碑が建っています。坂本龍馬は、江戸後期の武士で 明治政府成立に大きな影響を与えました。

坂本龍馬襲撃事件のエピソードと龍馬とお龍さんの、日本で初めての新婚旅行出発の地を紹介。



12:15 月桂冠 到着

(ここからは、月桂冠と十石船の定員が夫々15~20名のため、2班に分かれて見学しました)

月桂冠大蔵記念館を見学する前に、伏見のお酒についての予習を。16世紀後半、豊臣秀吉(1537-98)が、桃山丘陵に伏見城を築いて居城の一つとしたことで、人が集まり、酒の需要も増えていったそうです。その後、江戸時代になると、京都と大阪を結ぶ水陸交通の要衝として伏見は更に発展し、伏見は兵庫県南東部の灘とともに、国内有数の日本酒産地になっていきました。

伏見の酒は「女酒」と呼ばれ、カルシウムやカリウムを適度に含んだ中硬水なので、素材の味を生かす薄味の伝統的な京料理との相性が良いと言われています。



13:15 十石船 乗船 三栖閘門資料館見学



今は十石船は京都伏見区の濠川で運行されている遊覧船です。伏見区は江戸時代から酒の製造が盛んで、十石船は酒やその原料である米を運ぶ輸送船でした。十石船が運航されている濠川沿いには歴史ある酒蔵が立ち並んでいます。白壁と焼き杉板の外壁のコントラストが美しく、川岸の柳との組み合わせも素敵です。



15:00 長建寺 説明・拝観

伏見探訪の最後は、長建寺。

江戸時代、伏見で最初に造られた船着き場は、伏見浜と言われ長建寺の正面にありました。三十石船は伏見と大阪を結び人々の往来、酒、米の運搬で浜は賑わったと言われていています。出航の合図は、長建寺の鐘楼の音でした。ご本尊は、はっぴ弁財天“島の弁天さん”と慕われました。船の安全、商売繁盛を願う人々を守ってきたと言われます。



赤い壁に竜宮門は、エキゾチックで美しい。この山門をくぐるだけで福が来ると言われていて、地域の人々が散歩がてらに参拝されています。又、京都で一番早く咲く枝垂桜は“糸桜”と呼ばれています。ご住職も美しい弁財天を近くで示され丁寧な説明もされました。和歌で書かれた“おみくじ”も素敵です

御香宮境内にて 皆様と一緒に！



皆様 お楽しみ頂けましたか。無事終わることが出来ました。感謝！